

自己評価表

 新居浜東高等学校
 学校番号(4)

教育方針	たくましい体力と自己開拓力、知性と品性にあふれる心豊かな人間性を備えた人材を育てる。	重点目標	自らを鍛え、たくましく未来を切り拓く生き方を求めて
------	--	------	---------------------------

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学習指導	家庭学習の充実	家庭学習 1日平均3時間以上を確保させる。 A:80%以上、B:60%以上、 C:40%以上、D:20%以上、 E:20%未満	C	1年生58% 2年生42% 3年生49% 全学年平均51%	課題の与え方、学力向上のモチベーションを高めるための方策を考える。 時代に合った学習方法を教員側もアップデートしながら適切な課題の内容を生徒に提供できるようにしていく必要がある。
	教科指導の充実	年間2回相互参観授業を行い、その成果を授業に反映させる。授業評価「教材の工夫・改善に努め、生徒の興味・関心を引き出している」90%以上を目指す。 A:90%以上、B:80%以上、 C:70%以上、D:60%以上、 E:60%未満	A	1学期と2学期に相互参観授業を2週間ずつ行った。他教科も参観し、教材研究のヒントや刺激となった。また生徒による授業評価の「興味・関心」の項目は「そう思う」「どちらか」というと「そう思う」が91.7%だった。	来年度も今年度と同様、相互参観授業を実施し、教員の授業の質をより高めるとともに、生徒による授業評価の「興味・関心」の項目の評価を今年度よりさらに良くしていく。
	読書活動の充実	生徒による授業評価を年2回行い、「分かりやすい授業を行っている」90%以上を目指す。 A:90%以上、B:80%以上、 C:70%以上、D:60%以上、 E:60%未満	A	1学期と2学期末に、生徒による授業評価を行った。「分かりやすい授業を行っている」という項目で、「そう思う」「どちらか」というと「そう思う」で92.2%だった。	生徒の評価はまずまずだが、学力が身に付いているかは疑問が残る。授業内容も1台端末を有効に活用し充実させて行く必要がある。
進路指導	進路指導の充実	読書冊数年平均1人10冊以上を目指す。 A:10冊以上、B:7冊以上、 C:5冊以上、D:3冊以上、 E:3冊未満	C	各学年とも昨年度より読書数が減少した。1、3年生は一昨年よりは多いが、2年生は一昨年度よりも少なかった。	平均読書数を改善していくために、蔵書の選択や、図書室からの発信を粘り強く続けていく。
進路指導	進路指導の充実	進路満足度100%となるよう進学・就職とも希望する進路実現を目指す。 A:100%、B:90%以上、 C:80%以上、D:70%以上、 E:70%未満	B	アンケートの結果を受け、生徒の結果はおおむね良好であると判断している。担任の先生方を中心にきめ細やかな指導が実践できている。	アンケートの結果を受け、保護者の回答結果が生徒に比べ10~15ポイント低い結果となっている。保護者へのアナウンスを今後充実させていく。
生徒指導	規範意識の醸成	いじめの未然防止、早期の認知・対応など、きめ細かな取組を行う。	B	いじめの認知件数、発生件数は減少し、問題行動としての件数はなかったが、その反面人間関係のトラブルが増えている。	人間関係のトラブルなどを未然に防止するために、担任、教育相談などとの連携をより密にして、情報共有を図るこ
		交通安全指導を徹底し、交通事故・違反件数0を目指す。 A:0件、B:1~20件、 C:21~30件、D:31件~50件、 E:それ以上	B	重大事故はなく、事故件数も減少した。違反件数も減少しているが、校外での自転車マナーやヘルメットの着用状況などはまだまだ改善の必要がある。	交通安全委員による通学時の街頭補導や交通安全意識啓発のための行事は、これまで以上にやっていくが、それ以上に日常の学校生活の中での指
健康安全指導	生活習慣の確立	1か年皆勤率45%以上を目指す。 A:45%以上、B:35%以上、 C:30%以上、D:25%以上、 E:25%未満	C	12月1日時点 1年生32.0% 2年生19.6% 3年生40.8% 全体31.2%	生徒課とも協力して、皆勤率向上を目指す。 皆勤の意識がコロナを経験して変化してきているように感じる。皆勤の項目の書き方を変える(精勤にするなど)必要があるかもしれない。
	交通安全指導の充実	地元警察署とタイアップし、交通安全マナーアップクラブの活動を推進する。	B	コロナ禍の時期から、交通安全茶屋などの活動が行えおらず、代わりに教員と生徒で朝の通学時の交通安全街頭指導を行っている。	交通安全に関する意識が向上しているとは言い難い現状があり、より細やかな指導と、地域や警察との連携が求めら

特別支援教育	特別支援教育の充実	個々に応じた支援体制を整える。欠席状況を常に把握し、ケース会議等を通して教職員の共通理解を図り、個々の生徒に対応する。	B	新年度の最初に全体での支援会議を行い、サポートファイルのある生徒を中心に情報共有を行った。また個別の事案についても適時話し合いを持ち、情報の共有を行った。	教育相談日誌を活用し、気になる生徒についての情報共有を行うとともに、相談ポストなどの設置を行い、生徒が教育相談室を活用できるように整備を行う。
保護者・地域等との連携	開かれた学校づくり	年間を通じて、積極的に授業公開を行う。 A：4回以上、B：3回以上、C：2回以上、D：1回以上、E：1回未満	B	5・6・11月の年3回授業公開を行った。参観者には評価票を記入していただき、その意見をまとめ教職員で共有した。	授業公開を今年度と同様実施していき、評価票の意見を参考に、より良い授業研究を実施していく。
		学校行事を保護者や地域に積極的に公開する。	B	様々な学校行事において保護者と連携を図りながら積極的に活動できた。	迅速な学校行事等の公開を心掛け、更に幅広く参加の協力を求めたい。
	情報提供の充実	ホームページをさらに充実させ、週5回以上の更新を行う。 A：5回以上、B：3回以上、C：2回以上、D：1回以上、E：1回未満	B	校内外の生徒の活動を中心に、更新が行えた。	健康スポーツ科発足に向けて、部活動の情報発信の充実を図る必要がある。部活動の情報量が少ないという中学生からの意見がある。特活課と協力して、部活動のページの充実を図る。
		メール配信サービスを活用し、ニーズに合った情報を迅速に発信する。	A	気象警報発令時の自宅待機および休校の連絡で活用した。今年から三浦教育振興財団の三浦奨学金のご案内をHPに掲載した。	学校HPへ奨学金の案内を掲載したり、校納金の口座振替日や工事に関する連絡などにメール配信サービスを積極的に活用する。
教育環境	教育環境の整備	進路希望に応じた個別指導の充実と課外の有効活用を行う。自習室・進路室の利便性の充実を図る。ICT機器の導入が進んだことを受けて、ICT機器の有効活用を目指す。	B	自習室、進路室の利用数が増加した。生徒の進路実現に対する意識の向上が見られた。また、進路室の資料も充実してきており、生徒への資料の貸出数も増加してきた。今年度は、土曜課外を利用し、看護医療系専門学校の進路ガイダンスを実施できた。進路に応じて、休日課外の運用について今後とも検討していきたい。	引き続き、自習室の整備と生徒が使いやすい環境の維持に努める。 進路室の資料を充実していくことで、更に、進路室の利用者数の増加を目指し、また、それが進路実現につながるような方策を考える。 進路希望に応じたガイダンスや課外の運用について、今年度の反省や成果を生かし引き続き検討していく。 生徒の進路実現に対する意識の向上が見られ、施設や資料の充実については、年々改善されている。 次年度は、ICT機器の活用について重点を置き、まず、就職希望者への情報提供のデジタル化を目指し、生徒が扱いやすくなるよう工夫していく。進学希望者については、例年利用している業者のシステムの利用率を上げることを目標とする。
業務改善	ICT機器の活用による業務作業の効率化	校務系やクラウドサービスの活用により日常の事務作業の効率化を行うことで業務負担の軽減を図る。	B	校務系メッセージを通して、校外の研修会等の案内を効率的に行うことができた。校務系に関しては全ての機能を使いこなせてはいないが、ある程度活用できている。	校務系のメッセージや掲示板を利用した情報共有及び研修会を積極的に実施し、ペーパーレス化や業務の効率化を目指す。校務支援システムをすべての教員が手軽に使えるように慣れていく必要があると思うが、まだまだ分からないこともあるので難しさを感じている。
※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。					